

## 宿泊産業の海外進出を機に 日本から世界のタップに

### グローバル市場へ果敢に 参入していく

2018年は創業31周年と、新たなスタートの年となりました。当社のPMSユーザーは約850施設で、2020年に1000施設という目標が視野に入ってきています。TAPのシステムを選び、使い続けていただいているユーザーの皆さまに、心から御礼申し上げます。

今年、2019年以降の事業の柱となる3つのテーマが軌道に乗り始めました。まずひとつ目は、システムベンダーとしてのグローバル展開です。インバウンド客数が3000万人に迫り東京五



代表取締役社長  
清水 吉輝氏

東京都江東区東陽2-2-4  
☎03-5683-5314  
<https://www.tap-ic.co.jp/>

1987年創業で、PMSを中心に宿泊業界に特化してシステム開発を行う。PMSユーザー数は2019年に900に達するデータ活用やAIによるビッグデータ先導型ホテルの積極的な開発に力を入れている。また、PMSの導入事例やノウハウの論文を雑誌「タップワード」第11号を迎えた。

輪にも1年半となりましたが、観光産業はインバウンドとアウトバウンドが一体となった分野です。インバウンドが伸びて日本の宿泊産業のステータスが高まるにつれ、日本企業が海外に進出するチャンスも増えていきます。

タップのPMSも多言語化を完了し、ユーザーホテルの海外展開に対応する準備を整えました。レストランや宴会を管理するサブシステムや新規開発のPOSシステムも同様です。欧米やアジアではそれぞれ現地の標準的なPMSがあるものの、タップの製品はPMSとサブシステムが統一設計で開発されているという強みもあり、機能的には充分に対抗できるレベルにあると考えています。また、国内チェーンの海外進出のようなケースであれば、国内外チェーンをタップのシステムで統一管理できる

というメリットも出ます。海外のホテルでは、今までの日本製PMSはいわば「テールに乗せてもらえない」状況が続いてきたのですが、2019年はいよいよグローバル市場に参入が可能になるでしょう。すでに、アジアや欧米への進出計画をお持ちの宿泊施設から、引き合いをいただいております。

2つ目のテーマは、国内市場の小規模宿泊施設へのシステム提供です。厚労省による2017年度データでは、ホテル数は約10000施設で前年比3%増、旅館数は約38000で減少続きなのに対し、簡易宿所は前年比約1割増の約32000となっております。タップのPMSのメインユーザーはホテルですが、簡易宿所などの小規模宿泊施設にも、当社のノウハウをご利用いただければと開発したので

「accommodo（アコモド）」です。ホテルやゲストハウスなどはもちろん、50室以下のビジネスホテルや旅館、民宿などにも十分に対応できるシステムで、宿泊管理、自社WEB予約、クレジットカード事前決済、多言語対応などの機能を備えており、クラウドサービスなので、すぐに使い始めることができます。カスタマイズはできませんが、初期投資ゼロのローコストでのご利用が可能です。主力のPMSとアコモドで、宿泊産業の幅広い分野をカバーできるようにしました。

第3のテーマは、PMS、周辺システム・機器、人材供給という、宿泊産業特化企業としてのインテグラルなソリューションのご提案です。PMSを始めとする基幹システムは自社開発を続けてまいります。PMSを核として他社とのコラボレーションも含めたサービスを、今後考えていく必要が出てくると思います。

人材供給については、今後ますます深刻化する宿泊産業の人手不足対策の一助として、日本語学校を取得し、有望な外国人スタッフをホテル・旅

館に送り出すという事業をスタートしました。栃木県宇都宮市の「栃木国際教育学院」がその第1歩です。定員80名の小さな学校ですが、アジアを中心とする世界各国から、自国で大学を卒業し、日本の宿泊産業で働いてみたいという学生が日本語を学んでいます。日本のホテルでスキルやマネジメントを身につけ、将来は母国のホテルで働きたいという学生もおりますので、日本の宿泊産業の海外進出に際しても大きな力になってくれると思います。2018年の10月に運営移行をしたばかりで、カリキュラムは従前の語学教育中心ですが、いずれホテル運営やITの基礎知識も盛り込んでいけるでしょう。将来は当社が琉球大学構内に「ホテル研究所」を持つ沖縄にも、姉妹校を設立したいと考えています。

大都市圏を中心に高稼働率が続く宿泊産業ではシステムへの設備投資意欲が旺盛で、海外進出への機運も高まっています。2019年は、宿泊産業の成長とともに、日本のタップから世界のタップに飛躍する年に行きたいと思えます。